向陽台小だより

11月号

令和2年10月30日

富田林市立向陽台小学校

「未来に向かう力」を育む

校長 古村 勝俊

秋が深まり日も短くなってきました。昼間の穏やかな日差しを恋しく思います。

さまざまな学びを積み重ねてきた2学期も、半ばを過ぎました。高学年の子どもたちは、学校を離れての宿泊学習も体験しました。5年生は臨海学校、6年生は修学旅行という大きな行事を、力を合わせしっかりとやりとげました。仲間との絆を一層深め、楽しい思い出をつくってくれたことと思います。行事の実施に向けて、準備等ご協力いただいた保護者の皆さまに、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、ここ数年、「非認知能力」ということばを耳にすることが多くなりました。

先日、大阪府教育庁の方から、家庭教育支援に関わるお話の中で、この「非認知能力」について教えていただく機会がありました。

この能力は、わかりやすく言えば、「自分やまわりの人たちと折り合いをつける力」のことで、大阪府では、「未来に向かう力」と表現しているそうです。

例えば、目標に向かって頑張る、自分の気持ちをコントロールする、思いやりをもって人と関わるなどの力がこれにあたります。これらの力は、乳幼児期から小学生のころに大きく育まれます。それによって、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困ったときにだれかに相談したりする力につながります。さらには、学習などがわかる力、考える力を育むことにもつながるという趣旨のお話でした。

子どもが何かをやり遂げたときにはその努力をほめ、失敗したときには共感してあげる。その積み重ねが、「未来に向かう力」を育む上で大切ではないかと思えます。

今後も、学校と家庭が連携・協力しながら、子どもの将来や人生を豊かなものにする、この「未来に向かう力」を大きく育んでいきましょう。

いよいよ明日は運動会。練習時間も限られた中で、子どもたちは一生懸命頑張ってきました。日に日に上手になり自信もつけ、お家の方に観ていただけるのを楽しみにしています。子どもたちのひたむきな気持ちから生まれる真剣な表情や姿に、温かい励ましの拍手をおくってあげてください。そして、力いっぱいやり遂げて、疲れて帰ってきた子どもたちに、最大限のほめことばをかけてあげてください。